

---

# 太陽に嫌われた男

タンポポ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

太陽に嫌われた男

### 【NZコード】

N6885A

### 【作者名】

タンポポ

### 【あらすじ】

世の中に嫌われたっていい。俺は…太陽に嫌われたんだ。

ああ～、今日も一段と冷えるな。

『ああ～、今日も一段と暑いなあ』

『まだ六月なのにこの暑さはヤバイよねえ』

そうか…もう六月なのか。

『…ん～おい、あいつ見ろよー。こんなクソ暑いのにジャケットはねえだろ』

『うわ、キモつ！見てるだけで汗かくよお』

そうだね、みんな暑そうだね。でも俺は寒いんだ。だから…昼間は嫌いだ。

自分勝手で構わない。嫌われるのは社会からだからな。

だけど、俺は…俺は太陽に嫌われた男。

『なんか…あいつ暗くねえ？』

『本当だあ～。まるであそこだけ日影みたい』

『ハハハ、んなわけねえつづーの』

その通りだよ。太陽は俺だけ照らしてくれないんだ…。早く沈め！

どんなに祈つてみても時計の針はまだ一時である。家に帰つて、少し眠ろ…。今日は珍しく十二時に起きちゃつたから眠いや…。

あ…今何時だろ？よし、もう八時か。早く…月の下に…。

俺の唯一の楽しみはこゝにして月を見る事だ。眩しいな…。綺麗だなあ…。ずっと月が出てればいいのに。

俺は何時間も月を見ていた。動くの早いよ…。あ～あ、太陽が上つてきた…。あ～あ、また…あいつが来た。

『いやあ～今日もいい天気だなあ。絶好のジョギング日和だ』

「黙つて走れねえのか！」

『なんだよ、倉木<sup>くわき</sup>今日は早いな』

「うるせえ…寝てないだけだよ。寺田<sup>てらだ</sup>こそ、いい加減あきらめる。もう一度と戻らないよ」

朝っぱらからジョギングをしているのは寺田といつて、陸上部仲間だった。最大のライバルであり、日々競い合つていたが、寺田はケガをして手術を受けた。

一度と元には戻らない。それは寺田が一番よく知つている。

『なんだよ…まだあの事根に持つてんのか?』

寺田がケガをする前、俺達は大会前にも関わらず、三時間のロードワークに出た。…それで俺が負けた。

別に競走という訳ではないが、自分より前に走っている奴の背中を見るのはかんばしくない。

ましてや、ライバルの寺田なのだ。

寺田は足に違和感があつたが我慢してやがつた。そのまま大会に出て…故障。

最大のライバルがいなくなつた俺はいつの間にか陸上部を辞めていた。負けたままで逃げたのだ…。

ちょうどその時からかな…俺が太陽に嫌われたのは…。

「こつでもお前に勝てる。だが、そのケガがあるからだ。」

『分からぬぞ?』のケガをハンデと思つた事などないからな』

「…やるか?」

『よしーー一つ賭けをしよう。俺が勝てば、倉木は陸上部に戻れ。倉木が勝てば、俺は走る事をあきらめる』

「てめえ…なめてんのか?陸上部を辞めた後も俺は自分が走る姿を忘れた事など一度もない」

『決まりだな……。勝負はここから学校までの道。約三キロだ。』

「行くぜ……よーい……ドン……」

負けるか……寺田はもう一度と元に戻らないんだ。それなのにお前の走る姿を毎朝見てこる。それが辛いんだ。でも、それも今日で終わりだ。

俺はスタートと共にスパートをかけた。そのままゴールを目標してやる。

『な……なに? もつのか? あんなペースが

さすがに寺田も汗っている。

「なんだ。もう汗かいてるぜ? 寺田」

朝とはいえ今日も暑いのかな? 残念な事に俺はちつとも暑くねえ。まさか太陽に嫌われた事がこんな形で役立つとはな。

ハア……ハア……

……? あ、あれ!?

苦しい……? 馬鹿な! たつた三キロももたないだと!?

な……ぜ……?

『ペースが落ちてるぞ？倉木』

寺田の声が耳に入った時にはもう遅かった。すでに日の前には寺田の背中があった。

俺はバテバテで学校に着いた。…結果はまたしても負けだ。

『はい、俺の勝ち。約束通り陸上部戻れよ』

信じられなかつた。足をケガしていて、完治していないとはいえ、まさか寺田に負けるなんて…。

「つるせぇー！」

俺は奇声を発して学校を飛び出した。

家に帰るといつまにか寝てしまつていた。

ふと目が覚めるともう夕方。今日も外に出て月を待つ。

……………。

月は…太陽に勝てないのだろうか…。

今日は、百八十度の地平線に太陽と月が同時に出ている。

月は太陽が沈まないと目立たない。

考えてみれば、いつも太陽と月は追い掛けっこしてるよな…。

……どっちが逃げているのかな?

決して月と太陽が並ぶ事もなければ追い抜く事もない。

太陽がいる限り、月は輝けない。

寺田が走る限り、俺は勝てない。

なあ…お円さんよ…

あんたも太陽に負けちまつたのかい?

寺田は努力をしていた。…なのに俺は…?

逃げていただけだった。

逃げていた…？違う！

決して逃げていた訳ではない。

逃げるなんて…いい方だ。  
後ろに人がいるんだから。

俺の後ろには誰もいなかつた。

誰から逃げていたんだ？

月が止まつちやえばいいなんて…

太陽に追い抜かれるに決まってるじゃないか！

今度は俺が追い抜く番だ！

出てこい！太陽！！

…う？眩しい。

ああ、今日は暑いな。

ホコリかぶつていた陸上用シューズをはいて

俺は学校までの道を走つて行つた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6885a/>

---

太陽に嫌われた男

2010年12月11日03時37分発行